

# 第42回 うつのみやこども賞だより

令和7(2025)年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『呼人は旅をする』

長谷川 まりる／著（偕成社）



令和7年7月6日

## ～読んだ本の感想より～

- 呼人の人々の生活、その周りの人たちの差別、誤解とともに生きる姿が描かれていて、ノンフィクションでも現実世界と重なるところがあった。
- 呼人の話がたくさん入っていておもしろかった。
- いろいろな呼人がいて、みんなに迷惑がかからないように嫌われていたり、あまり会わない人たちの気持ちを考えることができました。現実でも、あまり会わない人に寄りそって気持ちを分かってあげたい。
- 人には選択肢がある。考え方は1つだけじゃない。呼人は大変だと思った。
- 1人1人（呼人）みんな違った個性があっていいなと思った。
- それぞれの呼人によって、引きよせてしまうものが違く、さらに1人で旅をしないとイケないなんですごく大変だと思いました。
- 呼人はとても少なく、その状況でどうやって暮らすのかと気になりました。

## 『朝読みのライスおばさん』

長江 優子／作 みずうち さとみ／絵（理論社）

- ライスおばあさんのラップがおもしろかったです。
- 5年2組の教室にとつぜんやってきたパワフルなおばさんにびっくりしました。
- 『おおきなもも』の作者のペンネームが無花果 林檎（いちじく りんご）で果実関連だったように、題名とペンネームが関連しているというのも良かったし、読み聞かせの大切さがすごく伝わった。
- はじめは「ライスおばさんって、どういう人なんだろう？」と思っただけけど、物語を進めてみると、なぜときみたいに正体が分かっていくところがおもしろかった。
- 子どもたちがインタビューをしていって、どんどんライスおばさんの秘密に近づいているところがおもしろかったです。

## 『森と、母と、わたしの一週間』

八束 澄子／著（ポプラ社）

- 野々歩がくじけてもがんばって、みんなの助けをかりて生活する姿がかっこよかった。森の幼稚園はいいところだと思った。
- コロボックルに僕も参加してみたいと思った。暗くて活発ではない野々歩が少し明るくなって、友達とも仲良くなったところがよかった。
- 野々歩は友だちのラインをいちいち気になる人だったが、森の幼稚園の子どもたちに出会い、おばあちゃんや子どもたちの声で背中を押され、元気になれたのが良かった。
- 周りの環境によって性格が変わることに気付いた。
- 自然の美しさと子どもたちの無じゃきさのありがたみを感じました。

## 『風花、推してまいる！』

黒川 裕子／作 タカハシ ノブユキ／絵（岩崎書店）

- 最初は劇団などに興味がなかったけれど、お姉ちゃんや人力車などのお客さんによって推しができていくところがとても印象的で良かったです。
- 大衆演劇についてあまり知らなかったけれど、一生旅をするのは大変だろうと思った。1回観てみたいと思いました。
- はこ推しにふんとうする主人公を応援したくなりました。